

科目名	微積分Ⅱ		英文表記	Differential and Integral Calculus II		2012年3月12日		
科目コード								
教員名:成田誠 技術職員名:						作成		
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
情報通信システム工学科			3年	必	履修	4単位	講義	通年
科目目標	工学に必要な微分法と積分法について学習する。目標は計算法の習熟、証明などの論理的な理解、また他分野との関連などその背景や考え方、思想を紹介することも目指す。							
総合評価	前期・後期評価は定期試験(中間・期末)の平均。 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60%以上を合格とする。 尚、原則として再試験は行わない。							
達成度目標と評価方法	科目達成度目標				達成度目標の評価方法			
	①	1変数の微分積分が確実にこなせるよう計算力を身につける。			⇒	1変数の微分積分に関する種々の試験(定期試験)を行い、その結果によって理解度を評価する。		
	②	偏微分、重積分の概念を理解し2変数関数に関わる計算を着実にこなす力をつける。			⇒	多変数の微分積分(偏微分・重積分)に関する試験(定期試験)を行い、その結果によって理解度を評価する。		
	③	種々の1階・2階線形微分方程式の解法を身につける。			⇒	線形微分方程式に関する試験(定試験)を行い、その結果によって理解度を評価する。		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4				
	◎	(空白)	○	(空白)				
授業概要、方針、履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>工学で用いられる微分積分学すなわち微分法・積分法・微分方程式の解法とそれらの応用の講義を行う。</li> <li>本講義は2年次開講科目の「微積分Ⅰ」の続論として開講されるものである。</li> <li>講義は基本事項の定着及びそれらの応用法に重点を置き、定理・公式の証明、例題の解説中心の授業を行う。</li> <li>適宜演習を行っていき理解度を高めていく。</li> </ul>							
教科書・教材	教科書:「新編高専の数学3」,「新編高専の数学3問題集」(森北出版), その他適宜プリントを使用 参考書:「新訂微分積分1・2」,「新訂微分積分1・2問題集」(大日本図書) 「新編高専の数学2」,「新編高専の数学2問題集」(森北出版)							
<b>授 業 計 画</b>								
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容				自学自習 (予習・復習)内容	
1	微分法の復習	2	微積分Ⅰで扱った微分法の基本公式の復習を行い、計算練習を行う。また、まとめとして確認テストを行う。					
2	べき級数	4	べき級数の定義を行い、その収束半径の計算法を学ぶ。				数列の和(基礎数学I)	
3	高次導関数	4	高次導関数の定義を導入し、第2次、3次導関数から第n次導関数を類推することを学ぶ。				微分法(微積分I)	
4	テイラーの定理	4	テイラー展開・マクローリン展開を学び、関数をべき級数で近似する考え方を学ぶ。また、マクローリン展開を利用した近似値の計算を理解する。				微分法(微積分I・II)	
5	いろいろな不定積分	4	微積分Ⅰで扱った積分法の基本公式の復習を行い、計算練習を行う。また、平行根を含む関数の積分公式を新たに学ぶ。				不定積分(微積分I)	
6	種々の分数関数の不定積分	6	分数式(有理関数)の積分・三角関数の分数関数の積分などの積分の計算法を理解し、計算ができるようにする。				三角関数(基礎数学II)	

7	和の極限としての定積分	4	和の極限としての定積分の定義を理解し、定積分に関する種々の性質を学ぶ。また、区分求積法の考えを理解し、それを極限値の計算法に応用できるよう演習を行う。	級数の和(基礎数学I)、 定積分(微積分I)
8	前期中間試験(行事予定で過変更可)	2		
9	定積分の計算	4	定積分の計算練習を行う。	定積分(微積分I)
10	面積・体積・曲線の長さ	8	定積分の計算の応用として、面積・体積・曲線の長さの計算を行う。	定積分の計算(微積分I・II) 面積・体積(微積分I)、 曲線のグラフ(全般)
11	広義積分	2	広義積分の定義を行い、種々の広義積分の計算を行う。	積分法(微積分I・II) 極限(基礎数学I、 微積分I)
12	2変数関数	4	多変数関数を定義し、その定義域・極限値・連続の概念を理解する。特に2変数関数に関して種々の例を取り扱う。	極限(基礎数学I、 微積分I) 関数の概念(全般)
13	偏導関数、合成関数の偏導関数	8	偏微分を導入し、種々の関数の偏微分を行う。また、連鎖定理を用いて合成関数の偏導関数を計算することを行う。	微分法(微積分I・II)
14	2変数関数の平均値の定理	4	2変数関数の平均値の定理を学習し、全微分・近似公式等への応用を行う。	偏微分(微積分II) 近似式(微積分I・II)
期末	期末試験	[2]		
15	2変数関数の極大・極小	6	2変数関数の極値の計算法を学び実際に極値を計算する。	偏微分(微積分II)
16	陰関数定理、条件付き極大・極小	8	偏微分の応用として陰関数定理・ラグランジュの乗数法を学び、条件付き極大極小問題を解く。また、固有値を用いた2次形式の条件付き極大・極小問題を学ぶ。	偏微分(微積分II) 行列式・固有値・ 固有ベクトル(線形代数)
17	重積分	8	重積分を定義し、それを累次積分に変換する方法・累次積分の計算法を学び重積分を計算する。	積分法(微積分I・II)
18	極座標による重積分	6	ヤコビ行列式を用いた重積分の変換公式を学び重積分の計算を行う。またその公式の極座標変換への応用を学び重積分の計算を行う。	積分法(微積分I・II) 行列式(線形代数)
19	後期中間試験(行事予定で過変更可)	2		
20	微分方程式の定義	2	微分方程式の例を取り上げ、微分方程式を導入する。	
21	変数分離形の微分方程式	6	変数分離形の微分方程式の解法を学ぶ。	微分法・積分法 (微積分I・II)
22	同次形微分方程式	2	同次形微分方程式の解法を学ぶ。	微分法・積分法 (微積分I・II)
23	1階線形微分方程式	4	1階線形微分方程式の解の公式を証明し、それを利用した解法を学ぶ。	微分法・積分法 (微積分I・II)
24	完全微分形	2	全微分方程式を定義し、完全微分方程式の解法について学ぶ。	偏微分(微積分II)
25	2階微分方程式	6	2階微分方程式の分類・基本的な解法を学習する。	積分法(微積分I・II) 1階微分方程式
26	定数係数2階同次線形微分方程式	2	定数係数2階同次線形微分方程式の解の公式を学び一般解を求める練習を行なう。	2次方程式の解法 2次方程式の解の 公式(基礎数学I)
27	定数係数2階線形微分方程式	6	定数係数2階線形微分方程式の解法を学び実際に種々の微分方程式を解く計算練習を行なう。	微分方程式(微積分II)
期末	期末試験	[2]		
28				
29				
30				
学習時間合計		120	実時間	90
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準の所用時間(試行)

① 問題集、プリントによる計算練習	各1時間×60回
②	
③	
<b>備考欄</b>	
記入無し	

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)

|

|



|